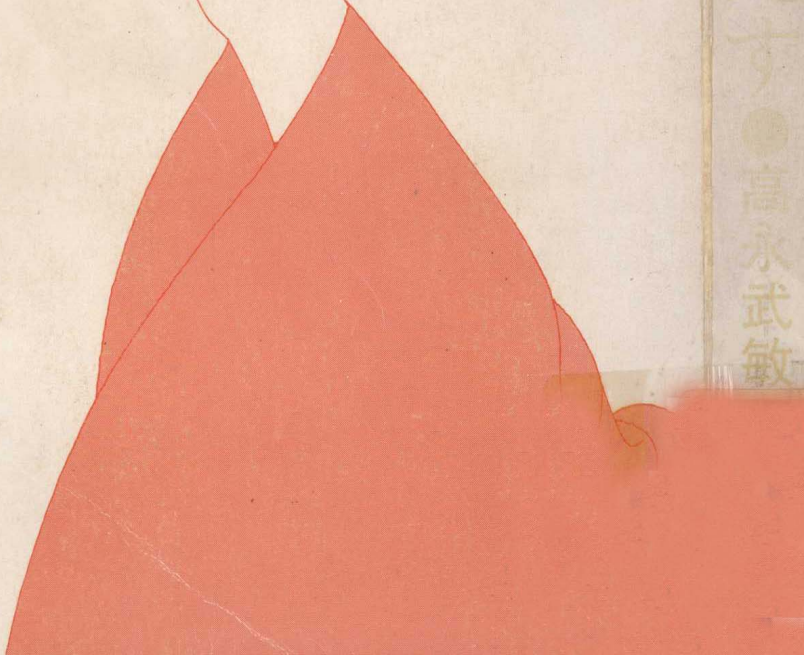


膠原病の疑いに妻死す ● 高永武敏





©1978

膠原病の疑いに妻死す

1978年12月30日 第1版第1刷発行

著 者 高 永 武 敏

発 行 者 池 田 恒 雄

発行所 株式会社 恒 文 社

東京都千代田区神田錦町3-3

振替口座 (東京) 5-35824

印刷・鈴木整版 製本・飯塚製本

落丁本・乱丁本はお取りかえいたします。 0076-007035-2273

膠原病の疑いに妻死す ● 高永武敏

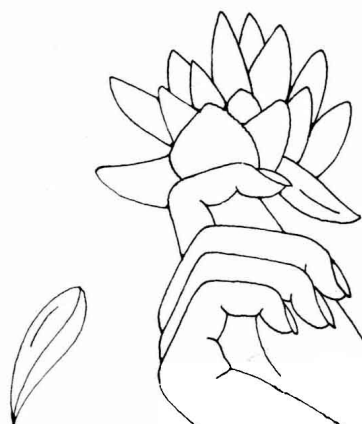




0076-007035-2273

膠原病の疑いに妻死す

高永武敏・著

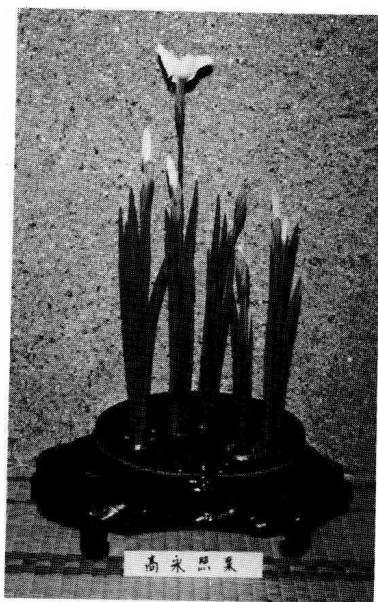




結婚式の仲人席で



結婚式の仲人の控室にて



亡・高永照葉 生花



相撲評論執筆100号記念パーティにて
左から著者，著者夫人，三宅代議士



旅先にて



ハイキングで

家の庭先で



■
目

次

第一部 生と死の一週間 7

1 昭和五十三年二月二十五日 9

2 昭和五十三年二月二十六日 21

3 昭和五十三年二月二十七日 33

4 昭和五十三年二月二十八日 49

5 昭和五十三年三月一日 65

6 昭和五十三年三月二日 72

第二部 妻の病状日記 81

1 その表紙には 83

2 十二月二十一日まで 85

3 十二月二十二日 87

4 十二月二十三日 89

5 十二月二十四日入院 91

6 十二月二十五日 92

7 十二月二十六日 93

8 十二月二十七日～三十一日 95

9 五十三年一月五日退院 97

10 退院後の妻の日程 98

第三部 縊死 数分 101

1 妻よ、許してくれ 103

第四部

モンゴル見聞記 171

2 陽光の下で 113

3 琥珀の指環 125

4 祭り囃子が涙を誘う 142

5 阿弥陀堂 五十二段 156

序 ゴビの砂漠に虹がたつ 177

1 アムール蛇行 183

2 黒パン鷺づかみ 190

3 インターナショナル・ポン引き氏 195

4 二つの谷と三つの坂 200

「一月五日の退院後、しばらく調子が良かったのですが、ここところ口の渇きがひどくなってきました、近所の内科医に行きましたらゼツカ症候群の疑いがあるといわれまして、血の精密検査をしました。その結果は三月三日に出るのですが、血の検査だけではダメで、眼の検査も必要だといわれ、眼科を紹介されて、今日その診断をうけました。眼科の精密検査の結果は三月四日に出るのですが、眼科医から内科医への返答書には、乾性角結膜炎でゼツカ症候群と考えてよいと思います、とあります。それで、三日に内科医、四日に眼科医の精密検査の結果が出ますので、五日は日曜日ですから、六日の月曜日に診察をしていただきたいのですが……もし、入院が necessary の御診断なら、一月入院のつづきとして、お願いしたいのです。それに、血糖値の検査もするようにといわれましたが……」

島田医師は、

「血糖値の検査は昨年末にすませています。そのときの血の検査では、お話ししましたように膠原病という判定にはなっておりません。しかし、退院後、二カ月ほどたっていますので、なにか新しい症状が出ておれば、また別のことですが……ゼツカ症候群なら、入院されて総合検査が必要でしょう」

と即答され、さらに当面の処置として、口の渇きは水やアメで、涙液不足は人工涙液で対応するように指示された。

私が症状の急変の場合を考えて、島田医師の自宅に夜間でも電話を入れることの許可を求める
と心よく承諾された。

島田医師との電話の後、さらに北里の目崎氏に電話して、三月六日ごろ再入院となると思われ
るので、よろしくお願いした。

「これで、よし」

私は大きな声で、妻に聞こえるように独言して電話器を置いた。

私はコタツに戻り、妻に威勢のいい声でいった。

「昨年末入院の精密検査では、膠原病ではないことを再確認したぞ。町医者 of 誤診だって例が多
いんだ。ともかく、三日に内科、四日に眼科の結果が出たら、六日の月曜日に北里病院に行こう
よ。入院の用意をして」

「やっぱり、入院となるのだろうか……」

妻は、気のすすまない返事をした。

「いや、一応は外来として診察して、その結果では通院ということになるかも知れないよ。その
ときは、二、三日、上高田で宿泊させてもらえばよいではないか……」

「病院のベッドでは、眠れないし……」

妻は、申し訳ないような顔でいった。

「そんな場合、睡眠薬か鎮静剤を服用すればいいんだよ。自宅で勝手に服用すべきではないが、病院で主治医の管理下ならいいんだよ」

私は答えて、テーブルの上の私の懐中時計を見た。午後四時を過ぎていた。がっくりとコタツに座り込んでいる妻を上げますように、

「さあ、夕食の用意をしようよ」

私は声をかけて、コタツから立ち上がった。

私たち夫婦は結婚以来、妻が夕食の用意をしている間に、私が入浴の段取りと寝室の用意をすることにしている。今日は私の禁酒日なので、妻の夕食の用意は簡単だ。

私がコタツから立ち上がったので、妻もコタツのテーブルに右手をかけて、よいしょと立ち上がった。

私は湯殿のガスに点火してから、妻の寝室の用意を始めた。一月二十八日から妻はヘルストン電気治療を始めたので、寝床の下に絶縁体の敷物をしく仕事の一つ増えたが、もうすっかり私は手馴れていた。

次に、私の寝室の用意をする。座間の相模台に家を建ててから十年ほどになるが、夫婦の寝室は別になっている。

妻が台所で夕食の用意をしている間に、私は入浴する。妻は、このところ風邪熱を注意して